

科目名	基礎演習		科目ナンバリング	N-LA CO 0-23.H N	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N10011						
区分	教養科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	高田まり子、佐藤厚子、田中真実、宇田宗弘、 菅原太輔、小野綾、齋藤史恵、阿部智美 ※下線教員グループワーク担当			授業 形態	演習	回数	複数
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 初年次教育の位置づけで大学生としての学習態度・自律的な学習能力の修得を目的とする。1名の教員が6名程度を担当する。小グループ演習の、学生参加型学習である。前半は共通課題を学習する。後半は、個々の学生が興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、分析しながらそのプロセス・成果をレポートにまとめ、パワーポイントを作成し発表する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 4-2, 5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 学生生活や学習習慣などの自己管理能力を身につけることができる。 2. 大学という場を理解できる。 3. 人として守るべき規範を理解し行動できる。 4. 大学の中で人間関係を構築できる。 5. 大学で学ぶための思考方法を理解でき、スタディスキルを修得できる。 6. 能動的で自立・自律的な学習への転換ができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	大学における学びとは (1) 大学という場の理解		キャリアデザイン (看護観・倫理観の育成) の実現を目指そう!						高田	
第2回	大学における学びとは (2) 大学で学ぶための思考方法		”振り返り”により考える力を育てよう!						佐藤	
第3回	大学生のためのスタディスキル (1) ノートの取り方/資料整理/レポート作成		学びを深めるノートの取り方・資料整理法を身につけよう! レポート作成の手順と基本ルールを知ろう!						高田	
第4回	大学生のためのスタディスキル (2) 入学前課題の振り返り/レポートの作成		入学前課題の振り返り後“いいね!”がつくレポートにチャレンジしよう!						高田	
第5回	大学生のためのスタディスキル (3) 図書館の探検		図書館を探検して身近な学修施設として活用しよう!						阿部	
第6回	演習 (1) テーマの決定・資料収集・要約		各自の興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、まとめる。						個人演習	
第7回	演習 (2) テーマの決定・資料収集・要約		各自の興味・関心のあるテーマを決定し、調べ、まとめる。						個人演習	
第8回	演習 (3) 要約した内容の発表		要約した内容を発表し、要約の仕方や内容をディスカッションする。 ※司会・書記学生担当						グループ演習 ディスカッション	
第9回	演習 (4) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポートを作成を行う。						個人演習 ループリック	
第10回	演習 (5) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポートを作成を行う。						個人演習 ループリック	
第11回	演習 (6) レポートの作成		テーマについて収集した資料をもとに、各自がレポートを作成を行う。						個人演習 ループリック	
第12回	演習 (7) レポートの評価		各自が作成したレポートの、自己・教員評価を行う。						個別面談指導	
第13回	演習 (8) パワーポイントの作成		テーマについて分析したプロセスや成果の、パワーポイントを作成する。						個人演習	
第14回	演習 (9) パワーポイントの作成		テーマについて分析したプロセスや成果の、パワーポイントを作成する。						個人演習	
第15回	演習 (10) パワーポイントでの発表		テーマについて分析したプロセスや成果を、パワーポイントを用いて発表し、ディスカッションを行う。※司会・書記学生担当						グループ演習 ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>・入学前に提出された課題は、ループリックで自己評価し、基礎演習で活用する。 ・2/3以上の出席日数、学習への参加状況、レポート、発表などを総合的に判断する。 ・評価の割合は、個人レポート60%、参加姿勢20%、パワーポイント・発表(グループ評価) 20%とする。 ※第15回基礎演習の学びに関する自己評価の記入。</p>									
課題等	<p>※個人レポート提出日は担当教員が指示する。レポートは、A4 2枚(40×40)程度とする。 レポートの指導は、第11回/12回で実施する。</p>									
事前事後 学修	<p>・授業で紹介する参考図書は、積極的に読んでください。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・授業の中で、随時、参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習に活かすことが大切である。 3) スタディスキルを習得し、自己管理能力を身につけることがポイントである。</p>									

科目名	キリスト教概論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-00. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11001		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教及び宗教についての基本的知識を得ることを第一の目的とする。また、実際に聖書に触れ、読み、考えることを通して看護を学ぶ上での一助としたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連する。カリキュラムポリシーの1-2に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教や宗教についての基本的知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的観点から物事を見、自己の価値観と視野の広がりを目指す。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから社会や自分、更に看護に必要なものを考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学ぶ上で必要なこと			キリスト教や聖書の基礎知識、カルト宗教の危険とは						
第2回	弘前学院の歴史			弘前とキリスト教、弘前学院の歩み、キリスト教主義学校とは						
第3回	キリスト教科			キリスト教の歴史、ユダヤ教とイスラームとの関係も含めて						
第4回	看護とキリスト教			聖書には何故「いやす」物語がたくさんあるのか						
第5回	旧約聖書概説			旧約聖書の成立、ユダヤ教との関連、39巻のダイジェスト説明						
第6回	旧約聖書を読んでみる (1)			創世記が伝えるものとは					ディスカッション	
第7回	旧約聖書を読んでみる (2)			出エジプト記モーセの活動、十戒の意味					ディスカッション	
第8回	旧約聖書を読んでみる (3)			イスラエルの苦難の歴史、サムエル記と列王記を中心に						
第9回	旧約聖書を読んでみる (4)			預言書、知恵文学、諸書						
第10回	新約聖書概説			新約聖書の成立、27巻のダイジェスト解説						
第11回	新約聖書を読んでみる (1)			イエス誕生物語とクリスマスの意味					ディスカッション	
第12回	新約聖書を読んでみる (2)			イエスの語るたとえ話、奇跡物語は何を伝えようとしているのか					ディスカッション	
第13回	新約聖書を読んでみる (3)			イエスの十字架での死、復活の出来事の語るもの						
第14回	新約聖書を読んでみる (4)			パウロの働き、初代教会の成立、パウロ書簡とその他の書簡						
第15回	キリスト教から見て看護を学ぶとは			まとめとふりかえり、イエスの姿に学ぶ						
評価方法及び評価基準	<p>期末試験50%、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席とその感想文20%で評価。</p> <p>期末試験は講義中でふれたポイントが理解できているかどうかを問う問題を出題予定。</p>									
課題等	<p>講義時に指示。特別礼拝の感想文を提出してもらう予定。</p>									
事前事後学修	<p>講義時に指示した聖書テキストを事前学習として丁寧に読んでくること。事後学習として読むべき資料やサイトを提示した場合はその指示に従うこと。</p>									
教材教科書参考書	<p>『聖書 新共同訳』ISBNは色々ある。新共同訳の旧約聖書・新約聖書が入っていればどのサイズでもかまわない（入学時購入者は新共同訳である）。</p> <p>ノートとプリントを保管するファイルを各自用意のこと。毎回プリントを配布予定。</p>									
留意点	<p>場合によっては一回程度オンデマンドで講義を行う場合もある。</p> <p>木曜日10:20からの礼拝に参加すること。本講義及び礼拝、本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。</p>									

科目名	キリスト教倫理		科目ナンバリング	N-LA HC 0-01. H N	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N11002						
区分	教養科目	必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	キリスト教はわたしたち人間が他者とどのように望ましい人間関係を結ぶかを示唆してくれるものである。聖書を読むことを通して自己と他者の望ましいあり方やこの社会について考えてみたい。旧約聖書の創世記と新約聖書の福音書を手がかりに考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連する。カリキュラムポリシーの1-2に関連する。									
到達目標	1. キリスト教的視点や価値観から自己と他者の望ましいあり方を考える。 2. 聖書の中の様々な物語を通し、物語の示唆するものを読み取り、さらに自分ならばどうするかどうすべきか考える。 3. 看護を学ぶ上で大切なことは何か聖書から考える。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	方法論			キリスト教、聖書の基礎知識の確認、どのようなことを目指すのか						
第2回	創世記を読む (1)			イスラエル民族の苦難の歴史と天地創造物語の意味 (創世記1:1~2:4)						
第3回	創世記を読む (2)			失樂園のアダムとエバ (創世記2:4~3:24)				ディスカッション		
第4回	創世記を読む (3)			神は何故意に悪をしたのか (創世記4:1~26)				ディスカッション		
第5回	創世記を読む (4)			言葉が通じ合わない世界に生きている (創世記11:1~9)				ディスカッション		
第6回	創世記を読む (5)			人生は旅でもある (創世記12:1~25:26の中からピックアップ)						
第7回	福音書を読む (1)			イエス誕生物語の悲しみ (マタイ1:18~2:23 ルカ2:1~20)				ディスカッション		
第8回	福音書を読む (2)			放蕩息子をゆるす父親の姿 (ルカ15:11~32)				ディスカッション		
第9回	福音書を読む (3)			イエスの考えた社会福祉 (マタイ20:1~16)				ディスカッション		
第10回	福音書を読む (4)			あなたの持っているタラントとは (マタイ25:14~30)				ディスカッション		
第11回	福音書を読む (5)			職業選択の自由がある素晴らしさ (ルカ19:1~10)				ディスカッション		
第12回	福音書を読む (6)			愛するとは実践である (ルカ6:27~36 ルカ10:25~37)				ディスカッション		
第13回	福音書を読む (7)			病といやし、奇跡の意味 (ヨハネ5:1~18 マルコ2:1~12)				ディスカッション		
第14回	福音書を読む (8)			悪者探しは意味がない (ヨハネ9:1~12)						
第15回	まとめとふりかえり			今後の課題、講義のまとめとふりかえり						
評価方法及び評価基準	原則としてレポート50% (2回)、講義の出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。レポートは創世記から1回、福音書から1回。A4サイズ1枚程度。記述の適切さ、自分の考えや意見が的確に述べられているかを判断する。2回提出されない場合は不合格となる。									
課題等	講義時に指示。									
事前事後学修	講義前に聖書テキストを読んで予習しておくことは必須。									
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』ISBNは色々ある。1年次に使用したもので良い。ノートとプリントを保管するファイルを各自用意のこと。基本的に毎回プリントを配布予定。									
留意点	木曜日10:20からの礼拝に参加のこと。欠席の多い者やレポートに自信のない者は礼拝出席により救済する場合がある。									

科目名	哲 学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-02. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11009		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			「ここは今から倫理です。」						
第2回	「嘘も方便」は正しいか？			カントの倫理学説（義務論）について				課題解決型学修		
第3回	サバイバル・ロッターリー			生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？				課題解決型学修		
第4回	「最大多数の最大幸福」			個人と社会のあり方を考える				課題解決型学修		
第5回	功利主義の基礎			功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる				課題解決型学修		
第6回	幸福の計算			幸福とは何か、幸福へ至る道とは？				課題解決型学修		
第7回	人格概念			人格概念を検討する				課題解決型学修		
第8回	事実判断と価値判断			「である」と「べきである」の関係性について				課題解決型学修		
第9回	カントの定言命法			カントの倫理学説再説				課題解決型学修		
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？			道徳の原則とは何か？				課題解決型学修		
第11回	囚人のジレンマ			囚人にとって一番利益になる行為とは？				課題解決型学修		
第12回	施しは義務か？			貧者を援助しなければならないことの根拠				課題解決型学修		
第13回	正義は時代によって変わるか？			「格差」問題を考える				課題解決型学修		
第14回	科学は価値中立的か？			科学技術の光と闇				課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	心理学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-04. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11008		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	人は絶えず変化する存在である。そうした変化を心理学では発達と呼ぶが、その理解は、他者とコミュニケーションをとり関わりを持つ際に重要な基盤となる。この授業では発達という視点から心理学について学んでいく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達目標	1) 言語の獲得過程とそれに伴う対人関係の発達の变化について理解する。 2) コミュニケーションの際に留意すべき各年代の発達の特徴や心理的課題について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	生涯発達			生涯発達とは何か、またその発達段階論について概説する。						
第3回	乳幼児期の認知・運動発達（1）			乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（1）。						
第4回	乳幼児期の認知・運動発達（2）			乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（2）。						
第5回	乳幼児期の言語と対人関係の発達			乳幼児期の言語と対人関係の発達について概説する。						
第6回	発達障害と臨床的援助			基本的な発達障害の理解とその臨床的援助について概説する。						
第7回	児童期・思春期の発達			児童期から思春期にかけての心理発達と、それに伴う仲間関係の発達について概説する。						
第8回	児童期・思春期の心理障害と臨床援助			児童期・思春期の心理障害の特徴と、かかわりを持つ際の留意点について概説する。						
第9回	青年期の発達			アイデンティティの確立という観点から青年期の心的発達について概説する。						
第10回	青年期の心理障害と臨床援助			青年期発達の特徴と心理障害との関連性を概説する。						
第11回	成人期の発達			中年期の入り口や中年期から老年期への移行期に生じるアイデンティティの変容について概説する。						
第12回	家族臨床			夫婦療法や家族療法といった家族臨床と家族発達について概説する。						
第13回	老年期の発達と臨床援助			生涯発達という観点から老年期の捉え、その発達の課題について講義する。						
第14回	学校臨床・学生相談			学校における臨床援助活動や学生相談について概説する。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
事前事後学修	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	下山 晴彦（編著）『教育心理学Ⅱ：発達と臨床援助の心理学』（東京大学出版局 1998年） * 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	人間関係論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-05. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N15001		15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	栗林理人 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の趣旨] 本講義では“人間とは何か”という問い掛けについて、心の発達という視点から考えることを主題とする。そして、人間を包括的に理解する姿勢を持ち、誕生から死に至るまでの、心の発達の变化を主に扱う。発達に影響を及ぼす要因について理解を深め、発達段階の特徴や各発達課題に関する知識や考え方を学習する。最終的には、「人と向き合う」ということを学ぶことになる。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] →ディプロマポリシーの2、カリキュラムポリシーの2-1に関連する</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の発達を誕生から死までの一連の過程として捉え、発達の各段階の特徴や課題を理解する ・発達の要因（遺伝と環境）について理解する ・発達の各段階の特徴や課題を理解した上で、「人と向き合う」ということを理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）				備 考		
第1回	生涯発達の視点			誕生から死に至るまでの心の発達の变化						
第2回	発達の要因			発達の要因である遺伝と環境という視点						
第3回	発達の各段階①			乳幼児期～児童期の発達：感覚・知覚、認知				グループディスカッション		
第4回	発達の各段階②			乳幼児期～児童期の発達：アタッチメント、対人関係						
第5回	発達の各段階③			児童期、学童期の発達について				グループディスカッション		
第6回	発達の各段階④			思春期の発達について						
第7回	発達の各段階⑤			成人期の発達について				グループディスカッション		
第8回	発達の各段階⑥			老年期の発達について						
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価20%、最終レポート80%</p> <p>2回ほど、授業内容に沿ったテーマで小レポートの作成を求める。その内容、量、および、授業中の態度等を総合して平常点評価とする。最終レポートでは、各授業の内容を踏まえたうえで、教員が提示した形式に沿って自分の考えを記載しているかを評価する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	特になし									
教材教科書参考書	使用しない									
留意点	講義と演習によって行う。グループによるディスカッションを行い、集約した意見を発表する機会を提供する。 連絡先 E-mail: michito1@hirosaki-u.ac.jp									

科目名	ソーシャルスキル		科目ナンバリング	N-LA HC 0-06. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N15002		15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	土屋 陽子・井澤 美樹子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 個人およびグループにおける社会意識の形成とコミュニケーション理論とスキルを学び、実践的な方法を習得する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシー3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、5-1に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 社会生活を円滑に過ごすことができるよう、コミュニケーションに関する理論と実践方法を学ぶ。 2. グループダイナミクスを活用した、グループ活動についての理論と実践方法を学ぶ。 3. 個人とグループを支援する際の、自らのコミュニケーションに関する特徴に気づくことを学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容 (授業時間外の学修を含む)						備考	
第1回	社会意識とその形成		社会意識とその形成について、実際例を示しながら説明する。						講義・グループワーク (土屋)	
第2回	協調的問題解決とコミュニケーションスキルの理論と実際 (その1)		コミュニケーションスキルの理論を学ぶ。						講義・グループワーク (井澤)	
第3回	協調的問題解決とコミュニケーションスキルの理論と実際 (その2)		コミュニケーションスキルの理論を学ぶ。						講義・グループワーク (井澤)	
第4回	演習1: インタビューの方法 (1)		<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通して、インタビュー方法を学ぶ。 ・演習により、インタビュー方法を実践的に学ぶ。 						グループワーク ディベート (土屋・井澤)	
第5回	演習2: インタビューの方法 (2)		演習により、インタビュー方法を実践的に学ぶ。						グループワーク ディベート (土屋・井澤)	
第6回	演習3: インタビューの方法 (3)		演習により、インタビュー方法を実践的に学ぶ。						グループワーク ディベート (土屋・井澤)	
第7回	グループダイナミクスを活用したグループワークの理論と実際		グループダイナミクスの理論とグループワーク運営の方法を実践的に学ぶ。						グループワーク (土屋・井澤)	
第8回	演習: グループ運営の実際, まとめ		理論を用いて、グループワークの運営を実践的に学ぶ。						グループワーク (土屋・井澤)	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー: 全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験: 試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポート、感想シート等は、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことをお勧めする。									
教材教科書参考書	<p>新版 人づきあいの技術 ソーシャルスキルの心理学/相川充、サイエンス社、2009 授業の中で、随時参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) 学んだことは、常に関連付けながら理解を深める。</p>									

科目名	憲法と法		科目ナンバリング	N-LA HC 0-07. S N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11003	時 間	30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本国憲法Aおよび日本国憲法Bを通じて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。日本国憲法Aにおいては、まず、民主主義の統治の基本原則を学び、その後、統治の機構としての「国民」やその代表者で構成される「国会」について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連する。</p>									
到達目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	統治の基本原則①			民主主義						
第2回	統治の基本原則②			「主権」概念の形成と展開						
第3回	統治の基本原則③			国民主権				ディスカッション		
第4回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の要件						
第5回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の位置づけ						
第6回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の権能				ディスカッション		
第7回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国権の最高機関						
第8回	統治の機構Ⅱ：「国会」			唯一の立法機関						
第9回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会の構成						
第10回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会の権能						
第11回	統治の機構Ⅱ：「国会」			議院の権能						
第12回	統治の機構Ⅱ：「国会」			議員の地位と特権						
第13回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会と内閣の関係						
第14回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会と裁判所の関係				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う筆記試験のみで評価します。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許します。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行います。</p>									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学習	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	経済学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-8. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	教養科目	選択	科目コード	N11004		30時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連する。</p>									
到達目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	序 論		授業の目的、概要、方法について説明します。							
第2回	重商主義の時代		アダム・スミスの時代と生涯について学びます。							
第3回	市場メカニズム		アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。							
第4回	小さな政府		アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。							
第5回	産業革命の時代		リカードの時代と生涯について学びます。							
第6回	国際貿易の原理		リカードの比較生産費説について学びます。							
第7回	階級闘争の時代		マルクスの時代と生涯について学びます。							
第8回	資本主義の構造		マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。							
第9回	資本主義の歴史		マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。							
第10回	ヴィクトリア時代		マーシャルの時代と生涯について学びます。							
第11回	市場経済の理論		マーシャルの需給均衡理論について学びます。							
第12回	大恐慌の時代		ケインズの時代と生涯について学びます。							
第13回	失業の原因		ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。							
第14回	福祉国家の形成		ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。							
第15回	まとめ		授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。							
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返ししながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材教科書参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版) 日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。									
留意点										

科目名	社会学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-09. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11005		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会学の基礎的な知識を学ぶことで、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、ジェンダー、セクシュアリティ、家族、階級・階層、健康・医療など。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアーに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	社会学とは何か（1）			人文社会科学と社会学						
第2回	社会学とは何か（2）			社会学のはじまり（デュルケム、ウェーバー、ジンメル）						
第3回	自己の社会学（1）			自己とは何か						
第4回	自己の社会学（2）			社会的に定義される自己						
第5回	自己の社会学（3）			自己と他者のコミュニケーション						
第6回	ジェンダーとセクシュアリティ（1）			ジェンダーの概念と特徴						
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（2）			ジェンダーと社会						
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（3）			セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ						
第9回	家族の社会学（1）			家族とは何か						
第10回	家族の社会学（2）			結婚と家族						
第11回	家族の社会学（3）			戦後社会における家族の変化						
第12回	グローバル社会とエスニシティ（1）			エスニシティと国民国家						
第13回	グローバル社会とエスニシティ（2）			多文化社会と共生社会						
第14回	健康・医療の社会学（1）			健康の概念、医療化						
第15回	健康・医療の社会学（2）			医療と社会						
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれらの概念を使用して社会現象を応用的に捉えることに関する問題を出します。論述問題では、論理性および着眼点の独自性を評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	<p>教科書：宇都宮京子・西沢晃彦編『よくわかる社会学 [第3版]』ミネルヴァ書房（ISBN: 978-4-623-08971-0） 参考図書は授業中に指示します。</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の授業のうちの1回はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 ・Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます 									

科目名	歴史学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-10. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11006		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、古代地中海世界の誕生、古代ギリシアと古代ローマ、ユーラシアの東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。また映像教材も大いに活用します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連する。</p>									
到達目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンスー書き換えられる古代エジプト		映像教材を使いながら、本授業のねらいを説明します。						講義形式	
第2回	古代エジプト文明とナイル川・地中海世界		研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	海洋民族フェニキア人		ギリシア人と並んで地中海の覇者となったフェニキア人について学ぶ						講義形式	
第4回	海洋民族ギリシア人とギリシア文明		古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ						講義形式	
第5回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 1		都市国家アテナイを中心に古代ギリシア社会の発展について学ぶ						講義形式	
第6回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 2		古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイの繁栄について学ぶ						講義形式	
第7回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ 1		映像からローマ帝国の政治・軍事システムを学ぶ						講義形式	
第8回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ 2		映像からローマ帝国の生活・文化を学ぶ、ミニレポートは前半の総括						講義形式	
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 1		ローマ帝国誕生の前史を学ぶ						講義形式	
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 2		都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ						講義形式	
第11回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 3		「地中海帝国」としてのローマ帝国の誕生について学ぶ						講義形式	
第12回	シルクロードとユーラシアの海の道		ローマ帝国時代のユーラシア東西交流の実像を学ぶ						講義形式	
第13回	イスラム帝国とアジアの大航海時代		イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ						講義形式	
第14回	イスラム帝国とイスラム文化		「イスラムとは何か」を学び、イスラムに対する誤解を正す						講義形式	
第15回	「海のシルクロード」の誕生		アジアの大航海時代の内容と「海のシルクロード」の存在を学ぶ						講義形式	
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な事項に対する問いも含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	教育学		科目ナンバリング	N-LA HC 0-11. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N11007		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本授業は、「生涯学習」に関する歴史や制度の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が「生涯学習」についての理解を深めていくことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習とは何かについて、歴史的背景を踏まえながら自分の言葉で説明できる。 2) 生涯学習に関して、現在どのようなことが問題となっているのか自分の言葉で説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・ 生涯学習とは何か				グループワーク ディスカッション		
第2回	生涯学習の基礎 (1)			・ 生涯教育と生涯学習				グループワーク ディスカッション		
第3回	生涯学習の基礎 (2)			・ 生涯学習の法制と行政				グループワーク ディスカッション		
第4回	生涯学習の基礎 (3)			・ 生涯学習施設				グループワーク ディスカッション		
第5回	生涯学習の基礎 (4)			・ 生涯学習の対象と方法				グループワーク ディスカッション		
第6回	生涯学習の基礎 (5)			・ 世界の生涯学習				グループワーク ディスカッション		
第7回	地域における生涯学習 (1)			・ 地域文化の継承				グループワーク ディスカッション		
第8回	地域における生涯学習 (2)			・ 地域防災教育				グループワーク ディスカッション		
第9回	地域における生涯学習 (3)			・ 地域スポーツの振興				グループワーク ディスカッション		
第10回	生涯学習と学校教育 (1)			・ 貧困・格差社会と学校教育				グループワーク ディスカッション		
第11回	生涯学習と学校教育 (2)			・ 刑務所の中の学校				グループワーク ディスカッション		
第12回	生涯学習と学校教育 (3)			・ 若者支援と居場所づくり				グループワーク ディスカッション		
第13回	生涯学習と学校教育 (4)			・ インクルーシブ教育				グループワーク ディスカッション		
第14回	生涯学習と学校教育 (5)			・ 多様性の包摂				グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ			・ 授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・ まとめレポート：50%</p>									
課題等	<p>・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・ 教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。</p>									
留意点	<p>・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	青年期のメンタルヘルス		科目ナンバリング	N-LA HC 0-32.S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期	
			科目コード	N11015	時間	15時間					
区分	教養科目	選択	担当者名	高橋 恵子				授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>カウンセリング論からみた青年期の心の健康について考えます。ストレスと健康、心と体、心身相関などの基礎知識を学び、心をしなやかに保つリラクゼーションのワークや、受講者同士の対話、傾聴のとり組みを通じて、自己理解と他者理解を深めます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-2, 4-1に関連する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間理解に必要なメンタルヘルスに関する基礎知識を修得します ・ 心身相関の気づきを深め、心とからだの健康を育みます ・ 心身との対話、他者との対話を通じて自己洞察と相互理解を深めます 										
回	授業内容							備考			
第1回	心の健康について考える		心とからだの健康 <i>well-being</i> の探求								
第2回	ストレスの理解		ストレスと心身相関							【持ち物】付箋 (15mm×50mm位) 20枚程度	
第3回	身体との対話(1)		リラクゼーション・ワーク① ー姿勢と呼吸を整えるー							体験学修 エクササイズ	
第4回	身体との対話(2)		リラクゼーション・ワーク② ー筋弛緩法・自律訓練法の実践ー							【持ち物】色鉛筆	
第5回	心の理解(1)		交流分析ーエゴグラム演習①							体験学修 エクササイズ	
第6回	心の理解(2)		交流分析ーエゴグラム演習②							体験学修 エクササイズ	
第7回	自己理解と他者理解(1)		人生の基本的構え、心の栄養、人生の価値、認知のバランス							【持ち物】 付箋ミニ (15mm×50mm位) 40枚程度	
第8回	自己理解と他者理解(2)		理解からの共感、対話と傾聴							ペアワーク	
評価方法及び評価基準	<p>平常点：授業のリフレクションペーパー、ホームワークの実施記録(50点)</p> <p>レポート：授業で提示されるテーマについて(50点)</p>										
課題等	ホームワーク、及びレポート										
事前事後学修	授業内容を日常生活の中で活かし、振り返りながら課題に取り組んでください。										
教材教科書参考書	授業中に資料を配付します。参考書等も適宜ご紹介します。										
留意点	講義と演習を行います。主体的にワークに参加し、自己理解と相互理解を深めましょう。										

科目名	高齢社会と生涯学習		科目ナンバリング	N-LA HC 0-33. S N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			科目コード	N11016	時間	15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	越 村 康 英				授業形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本授業では、生涯学習・社会教育の基本概念を解説したうえで、「超高齢社会」「人生100年時代」における高齢者の学習活動とその支援について、理論的・実践的に探究する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-2, 4-1に関連する。</p>									
到達目標	<p>①生涯学習・社会教育の基本概念について理解する。</p> <p>②「超高齢社会」「人生100年時代」の実相を把握し、新しい高齢者観を身に付ける。</p> <p>③高齢者の特性に応じた学習支援の在り方について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	ガイダンス 生涯学習とは何かー自己形成と学習			本授業（目的・内容・方法・評価）について説明する 生涯学習の基本概念について解説する						
第2回	社会教育とは何か			社会教育の基本概念について解説する						
第3回	「超高齢社会」「人生100年時代」における生涯学習の意義			高齢化率の推移（推計）等も確認しながら「超高齢社会」「人生100年時代」の実相を確認するとともに、そうした社会・時代における生涯学習の意義について掘り下げる ※インターネットに接続し、情報を収集しながら議論する						グループ ディスカッション
第4回	「成人の学習」の特性とアンドラゴジー			アンドラゴジーの理論に着目しながら、「成人の学習」の特性をふまえた学習支援の在り方について考える						
第5回	「高齢者の学習」の特性とジェロゴジー			ジェロゴジーの理論に着目しながら、「高齢者の学習」の特性をふまえた学習支援の在り方について考える						
第6回	実践事例に学ぶ(1)ー地域における高齢者の学習活動			公民館における高齢者学級やサークル活動など、地域における高齢者の学習活動に着目し、その意義・可能性について考える。						グループ ディスカッション
第7回	実践事例に学ぶ(2)ー超高齢社会の課題に向き合う社会教育実践			公民館における「認知症カフェ」、博物館と高齢者福祉施設が連携した「回想法」の取り組みなど、超高齢社会の課題に向き合う社会教育実践に着目し、その意義・可能性等について考える						グループ ディスカッション
第8回	高齢者が自分らしく暮らし続けるためにー授業のまとめ			これまでの授業内容をふりかえり、「看護師としての仕事」にどのように活かすことができるのかを考える						グループ ディスカッション
評価方法及び評価基準	<p>次の2点より総合的に評価します。</p> <p>(1)リフレクションパーパー（原則、毎回提出） 40%</p> <p>(2)期末レポート 60%</p>									
課題等	授業時間の中で適宜指示します。									
事前事後学修	<p>【事前学修】 地元の公民館等で実施されている高齢者事業について調べてください。</p> <p>【事後学修】 授業のレジュメ・資料を整理するとともに、授業の中で紹介した参考書を読んでください。</p>									
教材教科書参考書	<p>【参考書】 堀薫夫編著『生涯発達と生涯学習（第2版）』ミネルヴァ書房、2018、978-4-623-08475-3</p> <p>※上記は購入必須の教科書ではなく、参考書です。その他の参考書については、授業の中で随時紹介します。</p>									
留意点	履修人数等に合せて授業計画を変更する場合があります。									

科目名	コミュニケーション論		科目ナンバリング	N-LA HC 0-34. S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N11017	時間	15時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	鹿 嶋 彰				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>コミュニケーション論に基づき、コミュニケーションの基本的知識と技術を学び、保健医療活動に基盤となる人間関係の成立について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1に関連する</p>									
到達 目標	人間関係成立のために必要なコミュニケーションに関する知識・技術を修得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	授業ガイダンス コミュニケーションとは①		コミュニケーションの概念、コミュニケーションのプロセス 言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する					講義 グループワーク		
第2回	コミュニケーションとは②		コミュニケーションの目的、コミュニケーションの阻害要因 コミュニケーションに必要な能力・態度について理解する					講義 グループワーク		
第3回	コミュニケーションの技法①		「聞く」：特に傾聴の意義と技法についての考察と実践					講義 グループワーク		
第4回	コミュニケーションの技法②		「話す」：特に論点の明確化・要約の意義と技法についての考察と実践					講義 グループワーク		
第5回	ソーシャルスキルとしてのアサーション： アサーション入門		アサーションの重要性、アサーションに必要な知識・態度					講義 グループワーク		
第6回	アサーショントレーニングの実践①		アサーションの実践（教科書2をもとにしたケーススタディ①）					講義 グループワーク		
第7回	アサーショントレーニングの実践②		アサーションの実践（教科書2をもとにしたケーススタディ②）					講義 グループワーク		
第8回	まとめ		授業の総括と復習					講義 グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	第1回目～第7回目の講義についての小レポートの提出（7回×10点＝70点、70%）と試験（30点、30%）により、総合評価（合計100点、100%）を行います。									
課題等	・各講義（第1回目～7回目）について、小レポートを作成し提出します。									
事前事 後学修	・教科書1は第3回目の授業までに、教科書2は第5回目の授業までに読んでください。 ・講義内で扱った内容について必ず復習して下さい。また日常場面でも意識して実践し、振り返りを行ってください。									
教材 教科書 参考書	・教科書1『精神科医が教える聴く技術』高橋和巳著 ちくま新書1456（2019）ISBN:978-4480072757 ・教科書2『アサーション入門』平木典子著 講談社現代新書2143（2012）ISBN:978-4062881432 ・適宜資料配布、講義中に参考書を紹介します。									
留意点	・講義では毎回グループワークを行います。そしてそれを通じてコミュニケーションの大切さを体験します。 ・講義時のスマホの使用は、担当講師が許可したとき以外は使用禁止です。									

科目名	英 語 I A		科目ナンバリング	N-LA HL 0-12. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	教養科目	必修 有	科目コード	N12007	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング		担当者名	ヒューゴソン アルヴァル			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 英語の基本的な文法と語彙を、読む・書く・話す・聞くのすべての能力が上がるように学んでいく。基本的な日常会話に触れることにより、英語のコミュニケーションに必要な知識を増やしていき、読解だけでなく実用的な側面にも役立つような英語能力を身につける。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>高校までに学んだ基本的な文法や単語を確認したら、実際の場面ではどのように使われるかをテキストの会話やリスニングでインプットしていき、日常英語に慣れることを身につける。さらに、このようにインプットしたものや復習した文法・語彙を用いて、そのあとのリーディングやライティングで読解力や作文能力をできる限り上達することを学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	コース目的などの説明		コース概要、目標、評価、教科書などの説明							
第2回	Unit 1: Hello!		自己紹介の復習					ペアワークやグループワークあり		
第3回	Unit 2: Your world		他人についてリーディングとリスニングを学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第4回	Unit 3: All about you		仕事について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第5回	Unit 3		個人情報について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第6回	Unit 4: Family and friends		家族について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第7回	Unit 4		友達について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第8回	レビューユニット1～4		レビューと上達チェック（ユニット1～4）							
第9回	Unit 5: The way I live		スポーツ、食べ物、飲み物について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第10回	Unit 5		人と会ったときについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第11回	Unit 6: Every day		時間を尋ねることについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第12回	Unit 6		日常生活ことについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第13回	Unit 7: My favorites		旅について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第14回	Unit 7		注文、買い物などについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第15回	レビューユニット1～7		レビューと上達チェック（ユニット1～7）							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>出席が3分の2に満たないと評価の対象となりません。 期末試験の他、少なくとも一回の小テストを行います。例文などの小テストもあります。 授業への参加度や協力度も評価の対象になります。 評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。</p>									
課題等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってください。									
事前事後学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておいてください。									
教材 教科書 参考書	American Headway Level Starter Student book ISBN 978-0-19-472542-2 American Headway Level Starter Workbook ISBN 978-0-19-472546-0									
留意点	<p>授業中に退室する場合は必ず許可を取ること。 許可なくスマートフォンを使用した場合は、使用目的にかかわらず評価の対象から外れます。同様に授業の進行の妨げとなる事由については、評価の大幅な減点となったり評価の対象から外れることになるので、単位を取得しようとする者は十分注意されたい。</p>									

科目名	英語 IB		科目ナンバリング	N-LA HL 0-13. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
	教養科目	必修	科目コード	N12008	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	必修有	担当者名	ヒューゴソン アルヴァル			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 英語の基本的な文法と語彙を、読む・書く・話す・聞くのすべての能力が上がるように学んでいく。基本的な日常会話に触れることにより、英語のコミュニケーションに必要な知識を増やしていき、読解だけでなく実用的な側面にも役立つような英語能力を身につける。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>高校までに学んだ基本的な文法や単語を確認したら、実際の場面ではどのように使われるかをテキストの会話やリスニングでインプットしていき、日常英語に慣れることを身につける。さらに、このようにインプットしたものや復習した文法・語彙を用いて、そのあとのリーディングやライティングで読解力や作文能力をできる限り上達することを学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	レビュー		Unit 1-6の復習							
第2回	Unit 8: Where I live		場所案内について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第3回	Unit 8		故郷について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第4回	Unit 9: Times past		イベントについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第5回	Unit 9		バケーションについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第6回	Unit 10: We had a great time!		過去の出来事について会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第7回	Unit 10		週末の過ごし方について会話を学び練習する							
第8回	レビューユニット8～10		レビューと上達チェック（ユニット8～10）					ペアワークやグループワークあり		
第9回	Unit 11: I can do that!		能力、スキルについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第10回	Unit 11		日常トラブルについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第11回	Unit 12: Please and thank you		買い物、レストランなどについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第12回	Unit 12		パーティでの会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第13回	Unit 13: Here and now		色、服などについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第14回	Unit 13		時間の過ごし方などについて会話を学び練習する					ペアワークやグループワークあり		
第15回	レビューユニット8～13		レビューと上達チェック（ユニット8～13）							
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たないと評価の対象となりません。期末試験の他、少なくとも一回の小テストを行います。例文などの小テストもあります。授業への参加度や協力度も評価の対象になります。評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。</p>									
課題等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってくること。									
事前事後学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておいてください。									
教材教科書参考書	American Headway Level Starter Student book ISBN 978-0-19-472542-2 American Headway Level Starter Workbook ISBN 978-0-19-472546-0									
留意点	授業中に退室する場合は必ず許可を取ること。許可なくスマートフォンを使用した場合は、使用目的にかかわらず評価の対象から外れます。同様に授業の進行の妨げとなる事由については、評価の大幅な減点となったり評価の対象から外れることになるので、単位を取得しようとする者は十分注意されたい。									

科目名	英語Ⅱ		科目ナンバリング	N-LA HL 0-14.S N	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	通年
			科目コード	N12003	時間	60時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	ヒューゴソン アルヴァル				授業形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 基本的なヒヤリング、スピーキング、ライティングの学習。さらに会話能力の向上も目指します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1および5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	英語の能力をのばすと同時に、日本語と英語を話す国との間に存在する文化的な違いを理解することを目標とします。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容		備考	回	主 題	授業内容		備考	
第1回	コース目的などの説明	コース概要、目標、評価、教科書などの説明		ペアワークやグループワークあり	第16回	レビュー	Unit 1-6の復習		ペアワークやグループワークあり	
第2回	Unit 1: You and me	自己紹介の復習		ペアワークやグループワークあり	第17回	Unit 7: Dates to remember	歴史について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第3回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第18回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第4回	Unit 2: A good job!	仕事について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	第19回	Unit 8: Eat in or out?	食べ物について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第5回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第20回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第6回	Unit 3: Work hard, play hard!	休暇について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	第21回	Unit 9: City living	都会住まいについて会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第7回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第22回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第8回	Unit 4: Somewhere to live	住まいについて会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	第23回	Unit 10: Where on earth are you?	人の説明について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第9回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第24回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第10回	Unit 5: Super me!	できることについて会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	第25回	Unit 11: Going far	旅について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第11回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第26回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第12回	Unit 6: Life's ups and down	過去について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	第27回	Unit 12: Never ever!	経験について会話を学び練習する		ペアワークやグループワークあり	
第13回	"	"		ペアワークやグループワークあり	第28回	"	"		ペアワークやグループワークあり	
第14回	まとめ	前期に学んだことのまとめ			第29回	まとめ	後期に学んだことのまとめ			
第15回	まとめ	前期授業の総括			第30回	まとめ	後期授業の総括			
評価方法及び評価基準	評価に占める割合が高い方から、期末試験(6割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度・積極性(4割)、となります。									
課題等	授業で行った範囲のWorkbookアクティビティを次回までやってくること。									
事前事後学修	授業の後は理解できないところがないよう必ず復習しておくこと。とくに期末試験までにわからないところを解決しておいてください。									
教材教科書参考書	American Headway Level 1 Student book ISBN 978-0-19-472565-1 American Headway Level 1 Workbook ISBN 978-0-19-472569-9									
留意点	学生は授業をすべて英語で行うことを目指しましょう。									

科目名	医療英語		科目ナンバリング	N-LA HL 0-15. S N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N12004	時間	30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	東大病院発 医療スタッフのための英会話に付属しているCDをリスニングして、看護・医療に関連する英単語や英語表現を理解し学ぶ。また、映画（超字幕）を視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3-2,4-1,5-1に関連している。									
到達 目標	1. 外国人患者に対する、リスニング力を身につけることができる。 2. 映画（超字幕）を視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行うことができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション			ガイダンス						
第2回	救急患者、患者さんと話す			緊急対応時の必須フレーズ、全職種対応・厳選フレーズ。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第3回	職種別シーン マニュアルⅠ			総合案内窓口、外来電話予約。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第4回	職種別シーン マニュアルⅡ			外来窓口、入院窓口（入院手続き案内）での会話。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第5回	職種別シーン マニュアルⅢ			入院窓口（入院時）、入院窓口（退院時）での会話。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第6回	看護師Ⅰ			検診窓口。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第7回	看護師Ⅱ			外来（問診）外来（注射処置）。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第8回	看護師Ⅲ			外来（呼吸訓練）、入院（入院時案内等）。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第9回	看護師Ⅳ			入院（入院中の会話）、入院（退院時案内）。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第10回	看護師Ⅴ			手術（術前訪問）。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第11回	看護師Ⅵ			手術（入室・退室）。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第12回	薬剤師			お薬窓口、持参薬確認。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第13回	臨床検査技師			採血・心電図・呼吸機能検査・腹部エコー。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第14回	診療放射線技師			胸部撮影等。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
第15回	リハビリテーション・療法士			理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、レポート課題。WEBを視聴しリスニングとヒアリングのスキルアップを行う。						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)、60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsにより提出する。									
事前事 後学修	事前学修（30分）：講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修（60分）：授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布します。 参考書：東大病院発 医療スタッフのための英会話（ベレ出版）ISBN:978-4-86064-475-8、現場ですぐに役立つ！看護・医療スタッフの英語（CD付）（朝日出版社）ISBN:978-4-255-00452-5									
留意点	普段から看護・医療に関連した英文について興味をもつこと。									

科目名	ドイツ語 A		科目ナンバリング	N-LA HL 0-16. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N12006		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	【授業の主旨】 ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。									
到達目標	① ドイツ語で挨拶ができる。 ② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	0課 発音の基礎(1)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(1)							
第2回	0課 発音の基礎(2)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(2)							
第3回	1課 名前、住まい、出身、身分(1)		公的な場面で相手と話す・自己紹介する							
第4回	1課 名前、住まい、出身、身分(2)		親しい間柄の相手と話す・自己紹介する							
第5回	2課 簡単な質問に答える(1)		「はい」「いいえ」を使って答える							
第6回	2課 簡単な質問に答える(2)		「はい」「いいえ」を使わないで答える							
第7回	3課 買い物をする(1)		数詞を学ぶ。値段を尋ねる・答える。時刻(1)いま何時ですか？							
第8回	3課 買い物をする(2)		店に入って買い物をする							
第9回	4課 身の回りの物について話す(1)		身近な単語を会話に取り入れる(1)							
第10回	4課 身の回りの物について話す(2)		身近な単語を会話に取り入れる(2)							
第11回	5課 身近な人について話す		身近な人を話題に登場させる							
第12回	5課 電話をかける/友達を誘う		誘いかけの表現に慣れる							
第13回	6課 カフェで注文する		カフェで、何を注文するか友達と相談し、実際に注文する							
第14回	総復習(1~6課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(1~6課)		学習内容の総仕上げ							
評価方法及び評価基準	・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材教科書参考書	教科書は「ドイツ語インフォメーション neu ² 」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25358-9] 辞書として「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社)[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語 B と共通教科書を使い連携して理解を深めます。授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語B		科目ナンバリング	N-LA HL 0-16. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N12005		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	田中 寿子				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 〔キーワード：聞く、話す、書く〕ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	つづりと発音 (1)			アルファベートと簡単な挨拶						
第2回	つづりと発音 (2)			母音と子音、数の読み方						
第3回	タナカマコトと申します (1)			1課：テキストとパートナー練習						
第4回	タナカマコトと申します (2)			1課：練習問題と演習						
第5回	何をしているの？ (1)			2課：テキストとパートナー練習						
第6回	何をしているの？ (2)			2課：練習問題と演習						
第7回	その帽子はいくらですか？ (1)			3課：テキストとパートナー練習						
第8回	その帽子はいくらですか？ (2)			3課：練習問題と演習						
第9回	コーヒーを一杯ください (1)			4課：テキストとパートナー練習						
第10回	コーヒーを一杯ください (2)			4課：練習問題と演習						
第11回	こちらザビーネです (1)			5課：テキストとパートナー練習						
第12回	こちらザビーネです (2)			5課：練習問題と演習						
第13回	何を注文する？ (1)			6課：テキストとパートナー練習						
第14回	何を注文する？ (2)			6課：練習問題と演習						
第15回	まとめ			前期の総まとめ						
評価方法及び評価基準	授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（平常点）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前事後学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材教科書参考書	「ドイツ語インフォメーション neu ² 」（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語Aと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	日本語表現法		科目ナンバリング	N-LA HL 0-17.H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N13001		30時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	志喜屋カローリーナ				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 母語である日本語を話すトレーニング、書くトレーニングを行い、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」4技能の基本を学習する。日常生活に於ける実用的な文章の書き方、日常的な正しい会話、プレゼンテーション等について習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの11に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	日本語の表現（聞くこと、話すこと、読むこと、書くことすべて）について、現代の大学生として最低限必要な知識と技術を、受講者全員が共有できる。学術的な場面、また社会の中の様々な場面で効力を持つような、正確な日本語表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）				備 考		
第1回	オリエンテーション・自己紹介			授業内で使用するツールを確認する。 自己紹介で個人情報を守りつつ具体的に話すことで、興味の合う人が話しかけやすいようにする。						
第2回	大学でのノートの取り方			授業を再現できるノートをとろう						
第3回	敬語の基礎			基本ルールをマスターする						
第4回	確実な連絡メモ			5W1Hでチェックしよう						
第5回	メールの書き方			依頼メールの基本を学ぶ						
第6回	手紙の書き方			書式とマナーを身につける						
第7回	説明のコツ			「全体→部分」の順で説明しよう						
第8回	大学生の調べ方 1			インターネット・図書館で調べる				ICT活用		
第9回	大学生の調べ方 2			必要な文献を手に入れる				ICT活用		
第10回	堅実なレポートの書き方 1			具体的な手順を学ぼう						
第11回	堅実なレポートの書き方 2			体裁に気を付けよう						
第12回	やさしい日本語の概要			「やさしい日本語」の基本的な理念を理解する						
第13回	やさしい日本語で話してみよう			ハサミの法則（はっきり、さいごまで、みじかく）を使用し、ユニバーサルな日本語を使用する練習を行う						
第14回	やさしい日本語で公文書を書こう			役所が発行する文章や学校のお知らせをやさしい日本語に書き直す						
第15回	まとめ			これまでの内容を振り返る						
評価方法及び評価	出席30% 課題内容70%									
課題等	授業の内容に準拠したトレーニングシート課題を毎回提出する。									
事前事後学修	授業の前には予習を行い大まかな内容を把握しておく。授業後は、授業内で与えられた課題を仕上げて提出する。									
教材教科書参考書	参考図書は以下の通りですが、授業ごとにプリントを配布します。 橋本修ほか（2021）「大学生のための日本語表現トレーニング」三省堂 ISBN978-4-385-36325-7									
留意点	課題はただ単に提出するだけでなく、授業内容を反映したものである必要がある。									

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	N-LA HN 0-18. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N11013		15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	三浦 雅史				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 色々な統計手法の考えかたや実際の計算方法を習得して看護活動に生かせるように統計学の基礎を学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの11に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尺度について理解することができる。 ・母集団と標本について理解することができる。 ・代表値を計算することができる。 ・検定の手順と方法について実践することができる。 ・看護学関係論文の統計手法について理解することができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考
第1回	統計学とは			統計学が発展した背景や医学（看護学）との関連について学習する。						
第2回	統計学で扱う用語とデータについて			これまでの数学的な復習と新しい用語について学習する。						
第3回	記述統計と推測統計について			集団的なものの見方について、代表値と母集団について学習する。						
第4回	1変数の記述統計			1変数の代表値について学習する。						
第5回	多変数の記述統計			多変数の代表値について学習する。						
第6回	確率論			推測統計学の基礎となる確率論についての考え方、手法について学習する。						
第7回	離散型確率変数			離散型変数と確率について学習する。						
第8回	連続型確率変数			連続型変数と確率密度について学習する。						
評価 方法 及び 評価 基準	レポート、試験、講義の参加度による加算評価 レポート（50%）、試験（40%）、講義の参加度（10%）									
課題等	レポート内容、期日等については講義時に説明する。									
事前事 後学修	事前学習として合計12時間以上を目安とする。									
教材 教科書 参考書	教科書：看護師のための統計学、共立出版 ISBN978-4-320-11093-9 C3041									
留意点	看護の専門科目に繋がる科目であり、積極的な学習を期待します。									

科目名	環境論		科目ナンバリング	N-LA HN 0-19. S N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	教養科目	選択	科目コード	N11010		30時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③各地の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2に関連する。カリキュラムポリシーの1-1, 2-1に関連する。</p>									
到達目標	世界の自然が、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしを考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	世界の自然環境		世界の地形や気候の特徴						講義	
第2回	世界の人文環境①		自然環境をもとに展開する人々の暮らし						講義	
第3回	世界の人文環境②		自然環境をもとに展開する人々の暮らし						講義	
第4回	アフリカの地誌①		アフリカの自然環境						講義	
第5回	アフリカの地誌②		アフリカの人文環境						講義	
第6回	アフリカの地誌③		サハラ砂漠の変遷						講義	
第7回	アフリカの地誌④		サハラ砂漠の変遷						講義	
第8回	ネパールの地誌①		ネパールの自然環境						講義	
第9回	ネパールの地誌②		ネパールの人文環境						講義	
第10回	ネパールの地誌③		ヒマラヤのディレンマ						講義	
第11回	ネパールの地誌④		ヒマラヤのディレンマ						講義	
第12回	タイの地誌①		タイの自然環境						講義	
第13回	タイの地誌②		タイの人文環境						講義	
第14回	タイの地誌③		タイにおける自然災害と防災						講義	
第15回	まとめ		世界地誌と各地域の地誌のまとめ						講義	
評価方法及び評価基準	試験（80％）、小レポート（20％）									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事後学習	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材教科書参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意点	状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。再試験は実施しない。									

科目名	生 物 学		科目ナンバリング	N-LA HN 0-20.S N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期			
区分	教養科目	選択	科目コード	N11011			時間	30時間	担当者名	宇田 宗弘	授業形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有											
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2に関連する。カリキュラムポリシーの2-11に関連する。</p>												
到達目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>												
授 業 計 画													
回	主 題		授 業 内 容							備 考			
第1回	授業の進め方などの説明。生命科学と現代社会のかかわり		授業の進め方と評価方法の説明、自然科学とは										
第2回	細胞：生命の基本単位		生物（生命）とは、生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか							ペアまたはグループワーク、Slidoでの投票			
第3回	メンデル遺伝学		メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか										
第4回	個人差、遺伝子の変異		遺伝子の変異とはなにか？、遺伝子多型、一塩基多型を調べる							アクティブラーニング			
第5回	DNAの複製、転写、翻訳と変異		DNAの構造と複製、遺伝子の転写から翻訳のしくみ、変異の種類										
第6回	エピゲノム		エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノム情報は遺伝する？										
第7回	感染と免疫		人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、免疫応答のしくみ										
第8回	脳はどこまでわかったか		ヒトの脳の構造、神経細胞、記憶と学習の種類、記憶と長期増強										
第9回	身体運動の生命科学1		脳の構造と機能に対する身体運動（身体活動）の影響										
第10回	がんとはどのような現象か		日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療										
第11回	食と健康1		食べるとは、消化と吸収、エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題										
第12回	食と健康2		肥満、エネルギー摂取と消費のバランス、ダイエット（減量、体脂肪量の減少）										
第13回	身体運動の生命科学2		身体運動（身体活動）と生活習慣病について、糖尿病について、2型糖尿病（または高血糖）への身体運動の効果とその分子メカニズム							ペアまたはグループワーク			
第14回	老化		老化とはどのような状態か、老化と死亡率との関係、老化の実験モデル、老化のメカニズム、老化の予防は可能か？										
第15回	生命科学技術と生命倫理		ゲノム編集、人口妊娠中絶										
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題を出題して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。												
課題等	レポートの評価基準またはおさえておくべきポイントを、研究室の前の掲示板に掲示する予定です。												
事前事後学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）でその情報を調べてください。												
教材教科書参考書	教科書：現代生命科学（第3版）、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033（必ず購入してください。） 参考書：①カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書、第1巻～第3巻、D・サダヴァ 他著、石崎 泰樹／丸山 敬 監訳・翻訳 ②健康に老いる 老化とアンチエイジングの科学 後藤佐多良 著、東京堂出版（①、②の参考書は購入する必要はありません。） 参考書：基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（羊土社）など多数あります。												
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。												

科目名	化 学		科目ナンバリング	N-LA HN 0-21. S N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11012	時 間	30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	長 南 幸 安				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-1に関連している。</p>									
到達 目標	生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	ガイダンス			ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。						
第2回	原子のすがた①			体を作る物質・原子の構造						
第3回	原子のすがた②			電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子						
第4回	「もの」の量の表し方			物質量の表し方あれこれ						
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか			濃度の種類と定義						
第6回	「もの」の成り立ち①			原子の結合						
第7回	「もの」の成り立ち②			分子の結合・化学反応						
第8回	有機化学①			有機化合物の分類法と表し方						
第9回	有機化学②			生体高分子の構造・消化と酵素						
第10回	水の化学①			からだのなかの液体						
第11回	水の化学②			イオンと電解質						
第12回	からだの中の現象①			浸透現象						
第13回	からだの中の現象②			酸と塩基						
第14回	からだの中の化学反応			化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル						
第15回	まとめ			今までの総まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。									
課題等	期末試験の採点後の答えは、希望者に開示します。									
事前事 後学修	学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。									
教材 教科書 参考書	教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いづみ 共著 化学同人 ISBN:978-4-7598-1543-6									
留意点	毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー: 月~金 8:00~8:30(弘前大学教育学部4-29号室)									

科目名	医療概論		科目ナンバリング	N-LA CO 0-22.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N11014		15時間				
区分	教養科目	必修	担当者名	長友 克広、丹羽康貴				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代医療の社会的背景や制度を理解し、看護師として持つべき倫理観を学ぶ。 現代日本における重要疾病のトピックを学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、3-1に関連している。</p>									
到達目標	看護と医療の関わりを俯瞰し、現代社会の医療を支える上で医療人に必須と考えられる心構えの基礎を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	病の歴史		疾病と治療方法の変遷						長友克広 4/10	
第2回	医療を支えるしくみ		社会保障、医療保険						長友克広 4/17	
第3回	超高齢化社会		日本の人口変化、死亡要因の変化						長友克広 4/24	
第4回	睡眠について1		睡眠不足の影響						丹羽康貴 5/1	
第5回	睡眠について2		睡眠研究の現在						丹羽康貴 5/15	
第6回	看護師と医療の関わり		チーム医療						長友克広 5/22	
第7回	看護師と倫理		個人情報保護をとりまく事例紹介						長友克広 5/29	
第8回	医療事故と安全対策		ヒューマンエラーの要因、ヒヤリハット事例の紹介						長友克広 6/5	
評価方法及び評価基準	筆記試験（100%）									
課題等	特になし									
事前事後学修	特になし									
教材教科書参考書	プリント配布									
留意点	参考資料：①系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[1] 医療概論 医学書院、②新看護学4 保健医療福祉のしくみ 看護と法律 医学書院 講義中に提示されたデータベースや資料を理解すること									

科目名	スポーツ科学概論		科目ナンバリング	N-LA CO 0-24.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	教養科目	選択	科目コード	N14001		15時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	棟 方 達 也				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 スポーツは遊びである。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっている。特にスポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観し、さらに各論を加えてスポーツ像を再構築する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連する。カリキュラムポリシーの1-1に関連する。</p>									
到達目標	オリンピックについて、構造、歴史、ビジネスの観点からアプローチし、知識と理解を深める。また、各論として、ドーピング問題やスポーツが国際情勢及び自然とどのような関わりを持っているのかを理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ガイダンス及び導入		単位、評価、科目の位置付け等の説明。スポーツを学問の対象にするとはいくどのようなことか。人間にとての身体運動とは？						ppt. スライドとプリントを使って講義	
第2回	オリンピックの歴史		近代におけるオリンピックの復興から世界展開への流れ及び日本の関わりを知る。						ppt. スライドとプリントを使って講義	
第3回	オリンピックという存在		そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて解説する。(JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。)						ppt. スライドとプリントを使って講義 ITCの活用	
第4回	オリンピックビジネス		特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点からふまえて分析する。						ppt. スライドとプリントを使って講義	
第5回	ドーピング		ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。(JADAやJOC等のホームページ参照)						ppt. スライドとプリントを使って講義 ITCの活用	
第6回	スポーツと国際情勢		スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」、「宗教」、「女性」といった観点から捉える。						ppt. スライドとプリントを使って講義	
第7回	スポーツと自然		自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ(登山を例に)の変容を理解する						ppt. スライドとプリントを使って講義	
第8回	総括と試験		筆記試験(100点満点)							
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準	試験：100点(講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識と理解度を問う設問集) ※配布したプリント(ppt. スライド)に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。									
課題等	オリンピックの他、近年のスポーツ関連の情報(ニュース等)に日頃から関心を向ける。									
事前事後学修	JOC(日本オリンピック委員会)、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)等のホームページの情報を講義内容の理解(特に復習)に活用することが有効である。[ICTの活用]									
教材教科書参考書	ppt. スライド使用、プリント配布									
留意点	出席は取らないが、授業でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できない。									

科目名	スポーツ科学実技A (バスケットボールA)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-25. S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	教養科目	選択	科目コード	N14002	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	棟 方 達 也 (実務経験：JBA公認資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 5人制バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム(5人)の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学ぶ。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができない。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはならない。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要である。尚、重要な技能要素の一つであるドリブルの習得には、個別に相当量の練習時間を要するため、授業時間内では紹介のみとする。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	<p>バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワーク、ステップ、ラン及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解し実践する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> 受講者数、経験の有無等の確認 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達 					場所：体育館 実技の準備不要		
第2回	講義 1		1. ルーブリックの解説 2. 名称、歴史、コートの規格等 3. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。					場所：教室 ルーブリック配布		
第3回	講義 2		基礎知識の確認と筆記テスト							
第4回	基本の動き 1		ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き							
第5回	基本の動き 2		フットワーク各種、対人の動き							
第6回	基本の技術 1		ボールハンドリング、ドリブル、ピポット、キャッチ、パス、ミート 等							
第7回	基本の技術 2		対面パス(各種のパス)、移動を伴うパス、パス&ラン(三角パス、四角パス)							
第8回	オフェンス 1		パス&ラン、シュートの基本(セット、ランニング、ドリブル)、2メン							
第9回	オフェンス 2		シュートの基本、2メン、3メン(3線の理解)							
第10回	オフェンス 3		3メン、アウトナンバー(2対1、3対2)、得点の確率を上げるための合理的な展開							
第11回	ディフェンス 1		マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 1対1							
第12回	ディフェンス 2		マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 2対2、							
第13回	ディフェンス 3		マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 3対3、アウトナンバーディフェンス							
第14回	攻防の展開 1		5対5(ゲーム形式)							
第15回	攻防の展開 2及び実技テスト		5対5(ゲーム形式)、実技テスト							
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 評価点数配分の内訳、実技の評価基準の詳細等をルーブリックにて提示、解説 授業への参加状況：50点 実技テスト：30点 筆記テスト：20点 									
課題等	特に無し									
事前事後学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技なので個別の予習、復習は困難。									
教材教科書参考書	使用しない									
留意点	男女問わず。部活動その他で専門的な指導を受けたことのない人を対象とする。3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	スポーツ科学実技B (Walking)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-26. S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期変則
	教養科目	選択	科目コード	N14003	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	棟方達也 (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 「歩行」という運動についてアウトドアスポーツの側面から追求する。具体的には、平地での長距離ウォーク(イベント参加)と起伏のある場所でのウォーク(登山、トレッキング)を実践する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達 目標	日常のエクササイズというよりも、アウトドア系レクリエーションとして「歩く」ことを体感し、楽しむ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス (4/8)		受講者数確認 実施方法や日程等について					場所：体育館		
第2回	タウンウォーク 1 (4/15)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)					Aコース (フィールドワーク)		
第3回	タウンウォーク 2 (4/22)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)					Bコース (フィールドワーク)		
第4回	タウンウォーク 3 (5/8)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)					Cコース (フィールドワーク)		
第5回	タウンウォーク 4 (5/13)		大学を起点とし、約5kmのコースを歩く(歩数及び歩行時間計測)					Dコース (フィールドワーク)		
第6回			・内容：『第26回津軽路ロマン国際ツデーマーチ』参加					陸奥新報社HP参照		
第7回			・日程：2024年6月1日(土)～2日(日)予定					(フィールドワーク)		
第8回	ウォーキングイベント参加(授業5回分)		[課題] 2日間で合計25km以上になるように各自でコースを選択し参加する。							
第9回			※尚、イベント中止もしくは学部の事情等により参加できない場合は、代替の内容のウォーキング課題を別日程で実施する。 (タウンウォークの時間以外にもイベントまでに長距離を歩くトレーニングを積んでおくことが望ましい。)					※後日、完歩証 とレポートを提出		
第10回										
第11回			・内容：日帰り登山					(フィールドワーク)		
第12回			・日程：夏休み中							
第13回	登山(授業5回分)		・場所：青森県内(八甲田山系または岩木山)							
第14回										
第15回								※後日、レポートを提出		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>ガイダンス及び実技の参加・活動状況：60点 レポート：40点(登山については、コースタイム、コース状況、装備、飲食、体調などについて報告する)</p> <p>ウォーキング及び登山の全てに参加すること。</p>									
課題等	長距離、長時間歩行									
事前事後 学修	[事前] ウォーキングイベントに向けて、日頃から長距離を歩き慣れておくことが望まれる。									
教材 教科書 参考書	必要に応じて、提示、配布する。									
留意点	イベント参加料(¥1,000)、他実費各自負担 定員：8名(受講希望者が定員を超えた場合は抽選)									

科目名	スポーツ科学実技C (シーカヤック)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-27. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N14004		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 尾形 信(協力プロガイド)			授業 形態	実技	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨] シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことである。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動(SAP体験あり)を体験学習する。2泊3日のキャンプ形式で実施する。[フィールドワーク、グループワーク等のアクティブラーニング要素を含む]</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	<p>・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・野外での衣食住と共同生活への順応</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	ガイダンスと事前学習(7月)			受講心得、交通手段、費用、装備等について 基本作業の確認				Teams連絡または 掲示に注意		
2	実習 [フィールドワーク、グループワーク、PBL]			<p>実習地：北海道泊村盃海岸(予定)</p> <p>日 程：8月お盆以降(予定) (2泊3日+前後移動日)</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上指導 ・海上実践練習 ・ショートツアー ・キャンプサイトの設営と撤収 ・たき木調達とたき火の管理 ・食料、飲料水の管理と野外炊事 ・各種海浜野外活動(各自) ・報告書作成 				<p>・2人乗り艇</p> <p>・個別活動</p>		
評価方法及び評価基準	<p>ガイダンス、実習の参加、活動状況と活動報告書(5段階評価)を総合して評価する：100点 ※ガイダンスを無断欠席した場合は、実習に参加できない。</p>									
課題等	<p>団体行動に適応し、安全に配慮しつつも何事にも積極的に取り組む。虫嫌いや食べ物の好き嫌いを克服する。</p>									
事前事後学修	<p>[事前] 現地で実施したい個別活動の計画と準備</p>									
教材教科書参考書	<p>使用しない</p>									
留意点	<p>定員：3～8名 登録前に必ず、担当教員と面談し、適性の確認を受けてから登録すること。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後、キャンセルした場合は、この内金は返金されないの、登録には注意すること。受講費総額(内金含む)の目安¥35,000前後+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫!</p>									

科目名	スポーツ科学実技D (スクーバダイビング)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-28. S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N14005	時間	30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟方 達也 土田 浩人(協カインストラクター)		授業 形態	実技	複数		
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨] NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スポーツスクーバダイビング技能の習得を目指すとともに海浜(海洋)野外活動を学ぶ。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格の取得を目指す第一歩となる。実習期間中に認定に至らない場合は、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできる。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	NAUI OWD認定									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1.	ガイダンス(7月)			・受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類・eラーニング等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<ul style="list-style-type: none"> ・学科講習:eラーニング+現地補講 ・実習地:北海道美国町(積丹半島) ・日 程:夏休み中 2泊3日+前後移動日 ・内 容 [1日目]午前:実技1 午後:実技2+学科補講 <li style="padding-left: 20px;">[2日目]午前:実技3 午後:実技4 <li style="padding-left: 20px;">[3日目]午前:実技5 午後:実技6 				<p>[反転学習(eラーニング)]は実習前に修了</p> <p>※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講する。</p> <p>グループワーク(バディシステム)</p> <p>フィールドワーク</p>		
評価方法及び評価基準	OWD認定:100点 パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合:80点 ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	合宿による集中授業なので、集団生活への対応、特に他の者との協調性が求められる。また、スクーバダイビングに対する身体的適応性の事前確認									
事前事後学修	学科講習:実習前のeラーニングによる反転学習 [必須課題] 足の届かない深さで泳げる(パニックにならない)ようになっていること。									
教材教科書参考書	事前に所定の教材及び各種確認書類を配布									
留意点	<p>持病や体質等により受講できない場合があるので、登録前に必ず、担当教員と面談し適性の確認を受けること。(Teamsのチャットによるアポイント可) 履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されないため、登録には注意すること。</p> <p>受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施</p> <p>※[視力について]球面度数-2.0(目安視力値0.2)以下の人は、度付きレンズマスクの購入が別途必要。(購入価格¥24,000+税程度)</p> <p>※コンタクトレンズの使用不可</p>									

科目名	スポーツ科学実技E (スノースポーツ)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-29. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年～	開講 学期	後期
			科目コード	N14006		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟 方 達 也			授業 形態	実技	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 種目: スキー(初級者限定※未経験者不可) グループ分けにより自身のレベルに合った学習でスキルアップを目指すとともに、スキーのおもしろさを学ぶ。 対象レベル: 緩斜面をブルーク姿勢(ハの字)で真っ直ぐ滑って止まれる～ブルーク姿勢で緩斜面をターンしながら滑り降りる程度までのものを対象とする。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	<p>・安全で楽しい技術の習得 ・スキーの楽しさ、おもしろさの理解</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	ガイダンス			[12月上旬] 要項配布と説明、確認						
2	実習			<ul style="list-style-type: none"> ・実習地: 未定 ・日 程: 未定 ・内 容: 未定 <p>※降雪状況により延期または中止あり</p> <p>※用具やウエアのない人には、レンタル(あります。)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク ・グループワーク ・デモンストレーション 		
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点	詳細未定 年度初めに改めて通知									

科目名	スポーツ科学実技F (バスケットボールB)		科目ナンバリング	N-LA CO 0-30. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N14007		30時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	棟 方 達 也 (実務経験：JBA公認資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 原則として部活動その他でバスケットボールの専門的な指導を受けた経験がある人を対象とする。(経験年数不問)この授業は、1つのスポーツ競技としてのバスケットボールという存在を総合的に理解することを目的とする。そのために、実技はもちろんのこと、ゲーム運営(審判及びテーブルオフィシャル)、スポーツボランティア体験及びハイレベルなゲームの分析も含まれる。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマ・ポリシーの1に関連し、カリキュラム・ポリシーの1-1に関連する</p>									
到達目標	バスケットボールの総合的な理解と実践									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容						備 考		
第1回	ガイダンス	・バスケ経歴の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達 ・基礎知識の確認と解説 [反転学習]						教室にて実施 実技の準備は不要		
第2回	実技：基本の確認	レベルチェックのための各要素(パス、ラン、ドリブル、シュートなど)の確認 [反転学習]								
第3回	オフェンス 1	パス、ラン、シュート、1対1~3対3、スクリーンプレー、ノードリブルオフェンス、アウトナンバーオフェンス その他								
第4回	オフェンス 2									
第5回	ディフェンス 1	マンツーマンディフェンスの基本、フルコートディフェンス、アウトナンバーディフェンス その他								
第6回	ディフェンス 2									
第7回	攻防の展開	5対5 (ゲーム形式)								
第8回	テーブルオフィシャル及びスタッツ	正しいT0の運営とスタッツ入力理解						教室にて実施		
第9回	審判の基礎	JBA公認審判(E級)講習を受講する [ICT活用：eラーニング] (要受講関係費用¥1,400 ※2023年度参考) ※既に取得済みの者は免除						12月までに修了すること		
第10回										
第11回	スポーツボランティア体験	Bリーグ・青森ワッツのホームゲームボランティアを体験し、レポートする。[フィールドワーク、グループワーク]						10月~12月開催のゲームを対象とする		
第12回										
第13回										
第14回	ゲーム分析	国内、国外のハイレベルな試合(プロリーグ等)を観戦(映像可)しレポートする。						観戦方法によっては、ICTの活用(WEB配信映像)		
第15回										
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況：30点 ・実技レベル：20点(5段階評価) ・eラーニング修了：20点 ・ボランティア体験報告：20点 ・ゲーム分析レポート：10点 									
課題等	eラーニング及びボランティアは必須課題とし、修了が確認できない場合は、単位不可とする。									
事前事後学修	eラーニングやゲーム分析は、開講以前(前期中)でも実行可能なので、希望者は事前に申し出ること。									
教材教科書参考書	必要に応じて、提示、配布する。									
留意点	男女問わず。同年度においてバスケットボールAと両方の受講は認めない。3学部合同で実施 定員：18名 受講希望者が定員を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	海外研修		科目ナンバリング	N-LA CO 0-31.S N	単位数	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	通年
			科目コード	N15003	時間	60時間				
区分	教養科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	〔授業の主旨〕 This course will prepare students for study abroad in the United States with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program in Western countries.									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。									
到達 目標	This study abroad preparation course will prepare students for their experience abroad in Western English-speaking countries. Students will learn how to interact with English-speakers and deal with cultural differences during study abroad. The second semester documents credits transferred from Hirosaki Gakuin University-approved Study Abroad programs in English-speaking countries. Students must successfully complete a Hirosaki Gakuin University-sponsored study abroad program to receive credit for this course.									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	
第1回	Course Orientation and Program Introduction	Instructor explains course objectives and university study abroad programs.			第16回	The content for the second semester of this course is based on the curriculum of the study abroad program attended. Students must complete all parts of their program to receive credit.				
第2回	On the Plane	Students will learn about what to expect when traveling abroad experience & practice in pairs.		Create dialogue	第17回					
第3回	Airport Arrival Procedures	Students will learn about arriving at the airport & practice going through customs and immigration in pairs.		Fill out forms	第18回					
第4回	Meeting the Host Family	Students will learn about meeting their homestay family and practicing greetings in pairs.		Create dialogue	第19回					
第5回	Living with Host Families	Students will consider how and live with the host families and discuss gifts for host families		Group Discussion	第20回					
第6回	Sharing Japanese Culture	Students will consider how and what to share about Japanese culture and discuss gifts for		Explain a gift	第21回					
第7回	Orientation	Students will learn what to expect when they begin their study abroad.		Portfolio Page	第22回					
第8回	Making friends	Students will discuss how to make friends at study abroad programs in pairs and groups.		Portfolio Page	第23回					
第9回	Seeking Medical Care	Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad.		Portfolio Page	第24回					
第10回	Seeking Medical Care	Students will continue to learn about treatment for medical issues while studying abroad.		Portfolio Page	第25回					
第11回	Shopping	Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.		Portfolio Page	第26回					
第12回	Airport Departure Procedures	Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.		Portfolio Page	第27回					
第13回	Giving Presentations	Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.		Portfolio Page	第28回					
第14回	Cultural Portfolio Presentation	Students will present their cultural portfolios.		Presentation	第29回					
第15回	Review and Feedback	Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.			第30回					
評価 方法 及び 評価 基準	Classroom participation: 10%; Cultural book reading assignment: 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%. Students will be graded on their English language skills and their understanding of cultural differences between the west and Japan.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments.									
事前事後 学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 90 mins. / day.									
教材 教科書 参考書	<i>Go! Global-Preparing for ESL Courses Abroad</i> , Lieb (2015), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33448-7]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have a smartphone and a computer for classroom activities. Study Abroad programs for the second semester will require different materials that must be purchased as required.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible. Students are required to purchase new books--no sempai books allowed.									